

宮川総合水系環境整備事業

説明資料

令和5年10月26日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

はじめに

今回、事業再評価を実施する理由

■社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業であることから、事業評価を実施する。

○「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」の第3の1（5）「社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業」に該当

流域委員会と事業評価監視委員会との関係について

■河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議するものとする。

○「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」第6の6に該当

目 次

1. 事業の概要	1
(1) 流域の概要	
(2) 事業の目的及び概要	2
(3) 計画内容と事業の投資効果	4
2. 評価の視点	
(1) 事業の必要性に関する視点	7
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	7
2) 事業の進捗状況等	8
(2) 費用対効果分析	9
(3) 事業の進捗の見込みの視点	12
(4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	13
3. 県への意見聴取結果	13
4. 対応方針（原案）	13

1. 事業の概要 (1) 流域の概要

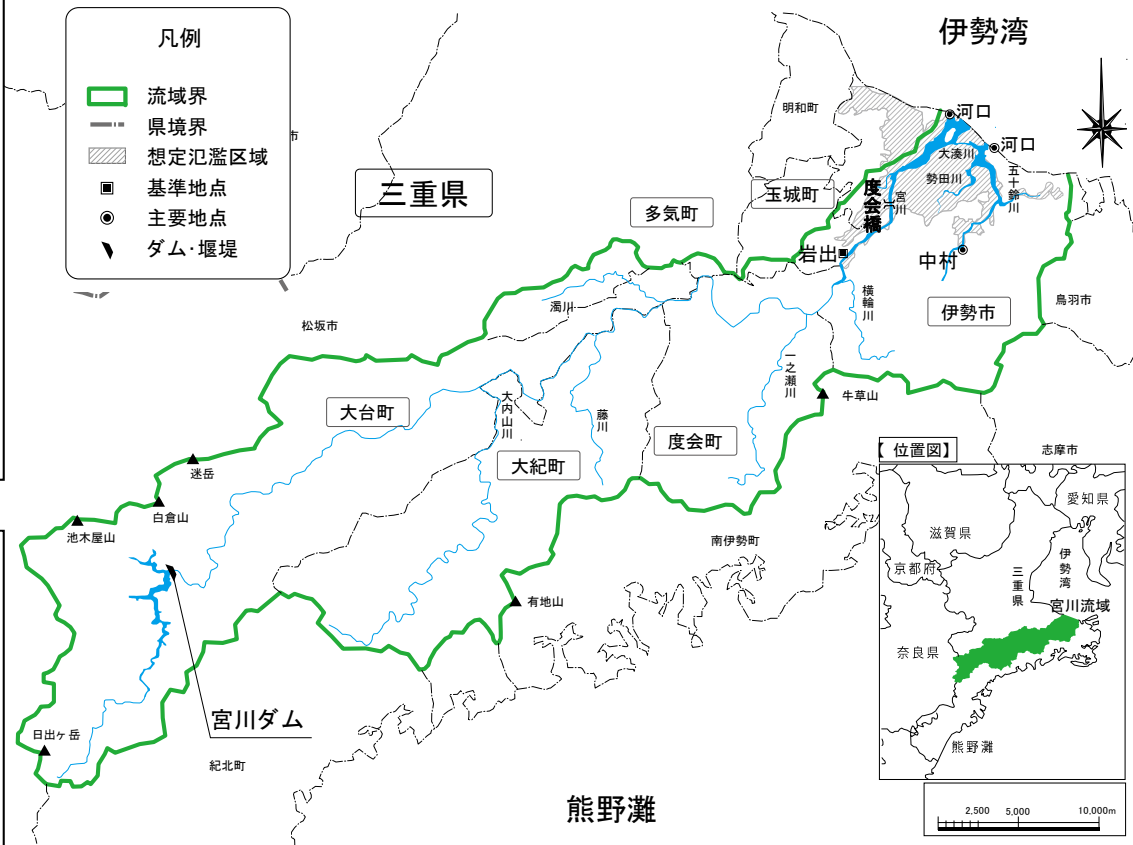
【流域の概要】

- ◆宮川は三重県の南部に位置し、大内山川等の支川を合わせて伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、その後、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 91km、流域面積920km²の一級河川です。
- ◆下流部は砂礫河原やアユ産卵場となる瀬などが見られ、河口部には干潟が形成され、シギ・チドリ類の渡りの中継地となっています。
- ◆度会橋より下流では、高水敷に河川公園やグラウンドが整備され、年間通じて多くの市民に利用されています。

【宮川流域の諸元】

- 流域面積 : 920km²
- 幹川流路延長 : 91km
- 大臣管理区間 : 22.6km
 - 宮川 11.6km
- 流域内市町村 : 1市5町
(伊勢市、玉城町等)
- 流域内人口 : 約14万人
- 年平均降水量 : 3,400mm(山間部) ※1
2,000~2,300mm ※1
(平野部)

※1: 平成15年~令和4年平均



流域概要図

(2) 事業の目的及び概要

【事業の目的】

- 宮川、勢田川に残されている自然環境や歴史文化資源を活用し、利用しやすい河川空間を整備することにより、伊勢神宮をはじめとした周辺施設との連携を図り、地域の魅力の向上と活力ある都市空間の形成に寄与することを目的とします。

【事業の概要】

- 事業区間：宮川（三重県）
- 事業期間：平成26年度～令和15年度
（前回評価 平成26年度～令和5年度※1）
- 全体事業費：約6.7億円
（前回評価 約3.5億円※1）
- 整備内容：水辺整備（1箇所）
屋田・玉城地区水辺整備
（参考：【完了】水辺整備1箇所）

※1 完了箇所評価を実施した箇所分は除いている。

実施箇所	内容	期間
1. 宮川勢田川水辺整備	緩傾斜堤防、管理用通路等	H19～26 (H27完了箇所評価)
2. 屋田・玉城地区水辺整備	親水護岸、せせらぎ水路、高水敷整正、盛土・坂路、管理用通路等	H26～R15

対象事業の実施箇所



(今回評価について)

年度	事業評価等	宮川総合水系環境整備事業	
		宮川勢田川水辺整備	昼田・玉城地区水辺整備
H19		設計・工事	
H20			
H21			
H22	再評価		
H23			
H24	再評価	再評価（継続）	再評価（新規）
H25			
H26		モニタリング	
H27	再評価	完了箇所評価	設計・工事 再評価（継続）
H28			
H29			
H30			
R1	再評価		再評価（継続）
R2			
R3	再評価		再評価（継続）
R4			設計・工事
R5	再評価		再評価（継続）
R6			
R7			設計・工事
R8			
R9			モニタリング
R10	(次回評価)		再評価（継続）
R11			
R12			
R13			
R14			
R15			

事業費、事業期間の見直し (R5→R15)

(3) 計画内容と事業の投資効果

再評価

整備の必要性

<背景と課題>

- ・宮川は我が国屈指の清流河川であり、当該地区は河川空間管理計画で自然利用ゾーンとして位置付けられ、「人と河川の豊かなふれあいの場」としての利用が求められています。
- ・高水敷には樹木が繁茂し、安全に水辺にアクセス可能なアプローチがないなど、効果的な利活用が妨げられていました。
- ・このため、玉城町では、河川空間を利用して子どもたちが安全に自然体験や環境学習ができる場の整備を要望し、平成26年に国土交通省「水辺の楽校プロジェクト」に登録され、たまき水辺の楽校として整備されてきました。
- ・整備後はキャンプやイベント等の新たな利用が増えています。

- ・一方、玉城町では、近年は観光入込み客数の減少傾向が見られており、観光交流人口の拡大を目指して新たな観光資源の発掘・整備を進める『玉城町観光振興計画』を令和2年に策定しています。同計画では、整備後、利用ニーズが拡大している水辺の楽校を活用していくことが位置付けられており、まちと水辺が一体となったにぎわいある空間づくりによる地域活性化を目指すこととしています。
- ・令和5年8月に『玉城町かわまちづくり計画』が新規登録され、川とまちが融合した魅力的なかわまちづくりを目指していきます。

<対策>

- ・高水敷の安全な利活用を確保するため、高水敷整備、親水護岸、せせらぎ水路など基盤となる整備を実施しました。また、玉城町において、芝生広場、駐車場などを整備しました。
- ・更なる利用活性化を図るため、盛土や散策路等の整備を進めていきます。

整備内容

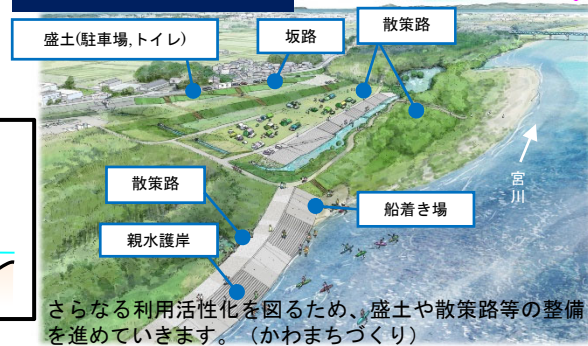
整備箇所



整備後 (現状)



整備イメージ (将来)



実施済み

- (国)
- ・親水護岸
 - ・せせらぎ水路
 - ・高水敷整備 等

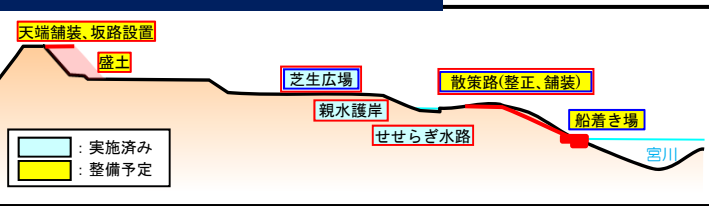
- (玉城町)
- ・芝生広場
 - ・駐車場 等

整備予定

- (国)
- ・盛土、坂路
 - ・親水護岸 等

- (玉城町)
- ・散策路
 - ・駐車場
 - ・船着き場 等

整備イメージ (将来; 横断イメージ)



事業の投資効果

- ・安全に川に近づけるようになることから、宮川の自然環境にふれることができる場となり、自然を活かした環境教育や自然観察の場としての利用が拡大しています。近年は、キャンプの場としての利用が拡大しています。
- ・せせらぎ水路では、メダカやドジョウ等が確認されており、子供たちが水辺や水生生物等に親しむ場として活用されることが期待されます。令和4年に蛇行ができるような形状にせせらぎ水路を改良したことで、魚類の生息数の増加も確認されています。

水辺の憩いの場としての利用



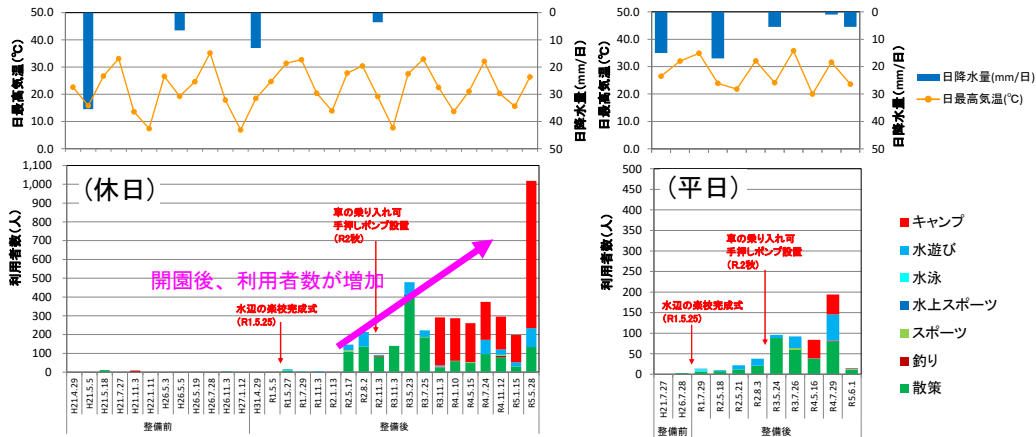
高水敷の利用（オートキャンプ）
(R5. 5. 29)



せせらぎ水路の利用
(R5. 5. 29)



園路の利用（自転車利用）
(R3. 5. 23)



平日・休日別の利用者数の推移（上段：調査時の気象条件（気温、降水量）、下段：利用者数）

環境教育の場としての利用



天体観測（玉城町主催）（R2. 8. 22）



水生生物調査の実施
(R1. 6. 12：玉城町立下外城田小学校)



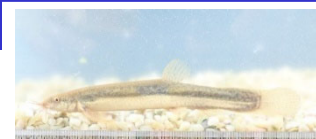
せせらぎ水路で確認された魚類



←せせらぎ水路の改良状況



せせらぎ水路（下流側）の魚類確認個体数



ドジョウ（環境省NT）



ミナミメダカ
(環境省VU、三重県NT)
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

(3) 計画内容と事業の投資効果

再評価

事業の投資効果

- ・ 今後は、キャンプやイベントの場として、さらに利用が拡大することが期待されます。
- ・ また、宮川の沿川に分布する歴史資源等と回遊させることで、まちの活性化に寄与することが期待されます。

整備後の利活用イメージ



イベントでの利用（ミナテラスキャンプ：R4. 11. 5開催）



オープンカフェのイメージ（他河川事例）



水辺で乾杯（R5. 7. 7開催）

玉城町コース

全長約25キロの初級・中級者向けのサイクルルート

三重県 玉城町の旧船野古道を主軸として、サイクリスト向けにコースを設計しました。平坦と緩やかな坂道を楽しみながら、時折続く神社仏閣の絶景を体感できます。有名な神社仏閣として、田丸神社や薬師社、東外城田神社、千引神社などがあります。

ぜひ、サニーロードサイクルルート 玉城町コースをお試し下さい。

サイニング宮川流域

サイクリングコースとしての活用
(出典：サニーロードサイクルルートHP
<https://sunnycycle-route.localinfo.jp/>)

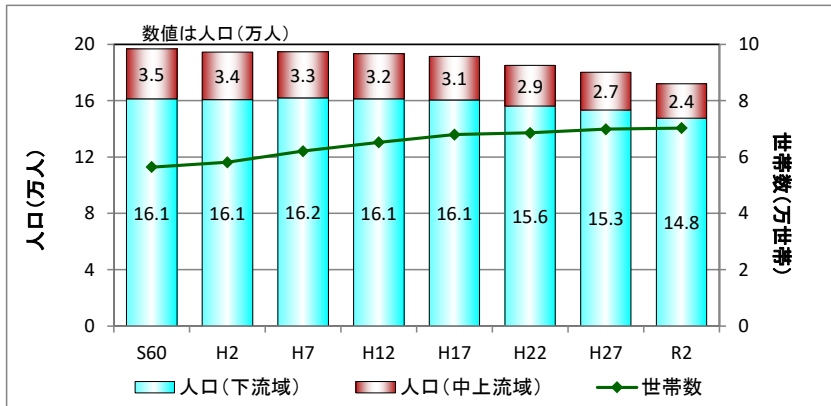
2. 評価の視点

再評価

(1) 事業の必要性等に関する視点

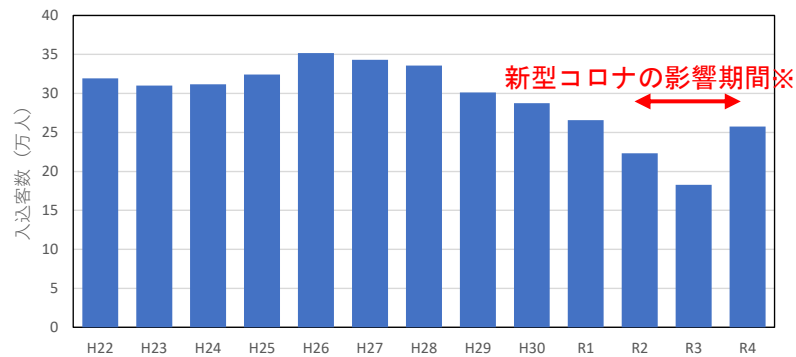
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 宮川流域の人口は、近年やや減少傾向ですが、世帯数は増加しています。
- ・ 玉城町の観光人口は、平成26年をピークに減少傾向でしたが、新型コロナの影響が緩和されつつあった令和4年にはやや回復傾向となっています。
- ・ 流域の豊かな自然や歴史文化を活かしたデイキャンプイベントや清掃活動などが行われており、多くの地域住民が参加しています。



宮川流域の人口・世帯数の変遷 (出典：国勢調査)

※ 下流域：伊勢市、玉城町、多気町(旧多気町分) 中上流域：度会町、大台町、大紀町



玉城町の観光入れ込み客数

(出典：三重県観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書)

※三重県における緊急事態宣言、まん防の発令期間：R2. 4. 16～R4. 3. 6



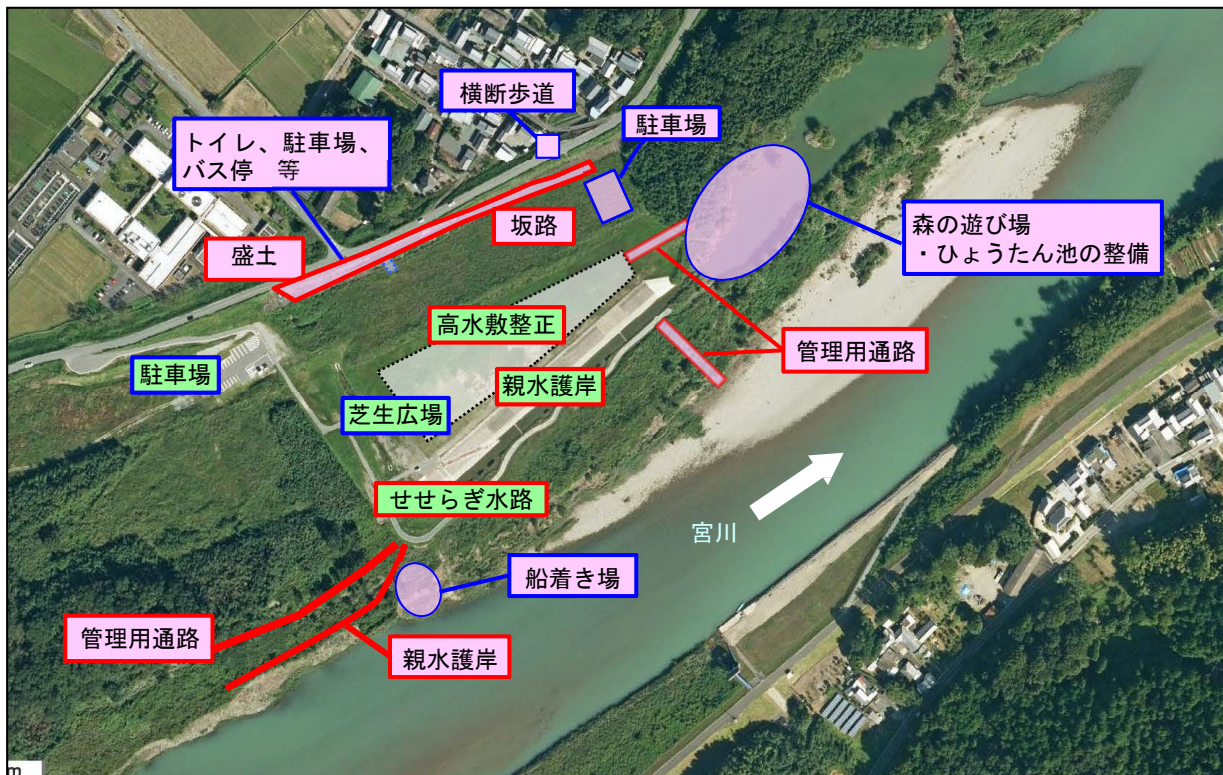
川と海のクリーン大作戦
(玉城町)の様子(令和4年)



ミナテラスキャンプ(令和4年11月5日)

2) 事業の進捗状況等

再評価

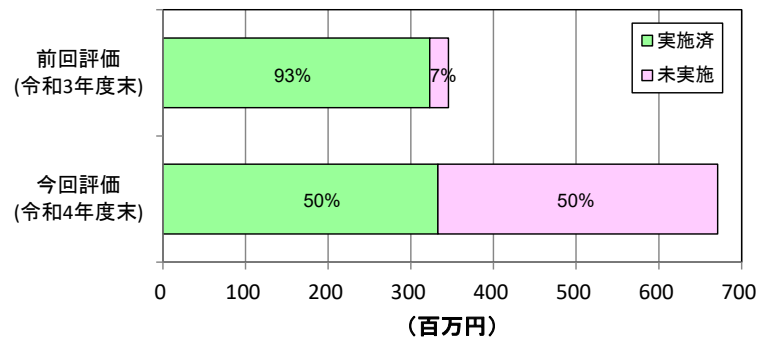


凡例

実施済	
■	国施工
■	町施工
未実施	
□	国施工
□	町施工

昼田・玉城地区水辺整備【継続】

事業費ベースの進捗率



・進捗率は、令和4年度末事業費ベースで約50%であり、今後は盛土、坂路整備や親水護岸整備等を実施していきます。

全体事業費：671.0百万円
 実施済：332.6百万円
 未実施：338.4百万円
 (税込)

- 事業費、事業期間の見直し
 - ・ 事業費の変更
○345百万円→671百万円
 - ・ 事業期間の変更
○令和5年→令和15年 (10年延伸)

(2) 費用対効果分析①

再評価

事業全体に要する総費用(C)は8.5億円、総便益(B)は13億円、費用対便益比(B/C)は1.5となります。

事項		宮川総合水系環境整備事業	
地区名		昼田・玉城地区水辺整備	再評価
		備考	
計算条件	評価時点	令和5年度	
	整備期間	平成26年～令和15年	
	評価対象期間	整備期間+50年間	
	受益範囲	事業箇所周辺5km 世帯数：29,308世帯	
	年便益算定手法	CVM（郵送アンケート） 回収数：488票 有効回答数：309票	
	支払意思額（WTP）	246円/月/世帯	
B/Cの算出	総便益（B）	13億円	※1, ※2
	年便益	0.87億円/年	※3
	便益	13億円	※2
	残存価値	0.03億円	※2
	総費用（C）	8.5億円	※1, ※2
	事業費	7.3億円	※2, ※4
	維持管理費	1.2億円	※2, ※4
	B/C（水系）	1.5 [2.3]	※5, ※6

※1:四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。 ※2:割引率4%で現在価値化 ※3:WTP×世帯数×12ヶ月 ※4:必要額の積上げ
 ※5:総便益(便益+残存価値)÷総費用(事業費+維持管理費) ※6:[]内は前回評価時の数値

(2) 費用対効果分析②

再評価

事 項		宮川総合水系環境整備事業		備 考
地区名		昼田・玉城地区水辺整備 再評価		
水系 B/C	全体事業 B/C	事業費 (+10%~-10%)	1.5 ~ 1.6	
		受益世帯数 (-10%~+10%)	1.3 ~ 1.6	
		工期 (+10%~-10%)	1.4 ~ 1.5	
	残事業 B/C	事業費 (+10%~-10%)	2.0 ~ 2.3	
		受益世帯数 (-10%~+10%)	1.9 ~ 2.3	
		工期 (+10%~-10%)	2.1 ~ 2.2	

(2) 費用対効果分析③【前回評価との比較】

再評価

事業名		宮川総合水系環境整備事業		備考
年度		前回評価 (R3)	今回評価 (R5)	
事業諸元		(2箇所) 宮川勢田川水辺整備 (完了箇所評価) 昼田地区水辺整備 (再評価)	(1箇所) 昼田・玉城地区水辺整備 (再評価)	
計算条件	評価時点	令和3年度	令和5年度	
	整備期間	平成19～令和5年度	平成26～令和15年度	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	
	受益範囲	事業箇所周辺5km 57,783世帯 (宮川勢田川地区) 34,763世帯 (昼田地区)	事業箇所周辺5km 29,308世帯	
	年便益算定手法	CVM (郵送アンケート) 回収数: 343通 (宮川勢田川地区) 471通 (昼田地区) 有効回答数: 226通 (宮川勢田川地区) 303通 (昼田地区)	CVM (郵送アンケート) 回収数: 488通 有効回答数: 309通	
	支払い意思額 (WTP)	255円/月・世帯 (宮川勢田川地区) 226円/月・世帯 (昼田地区)	246円/月・世帯	
B/Cの算出	総便益 (B)	63.0億円	13億円	※1, ※2
	年便益	1.9億円/年	0.87億円/年	※3
	便益	62.4億円	13億円	※2
	残存価値	0.6億円	0.03億円	※2
	総費用 (C)	27.8億円	8.5億円	※1, ※2
	事業費	24.3億円	7.3億円	※2, ※4
	維持管理費	3.5億円	1.2億円	※2, ※4
B/C (水系)		2.3	1.5	※5

※1: 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある

※2: 割引率4%で現在価値化

※3: WTP×世帯数×12ヶ月

※4: 必要額の積上げ

※5: 総便益(便益+残存価値)／総費用(事業費+維持管理費)

(3) 事業の進捗の見込みの視点

再評価

- ・整備後の環境や利用についてのモニタリング調査において、水辺の憩いの場、水辺の自然を観察する場としての利用の拡大が確認されており、今後のさらなる活用が期待されます。
 - ・令和元年以降は、せせらぎ水路に生息する魚類等について、継続してモニタリング調査を行っており、魚類の生息が確認されています。令和4年のせせらぎ水路改良により、魚類の確認個体数は増加傾向にあります。
 - ・かわまちづくり計画作成に向けて、学識者や地域の活動団体、地域住民からなる「玉城かわまちづくり協議会」や「玉城かわまちワークショップ」を設立し、意見交換を行いながら進めており、今後も継続的に開催する予定です。
- 以上のことから、事業実施にあたっての支障はありません。



玉城町かわまちづくり協議会の開催状況
(第1回：令和4年9月28日開催)



たまきかわまちワークショップの開催状況
(第1回：令和4年12月17日開催)



(4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

再評価

- ・ 残土処理地を変更し、運搬距離を短縮したことによりコスト縮減を図っています。
- ・ せせらぎ水路改良については、流用材の利用等によりコスト縮減を図っています。
- ・ 盛土材料は、現地発生土を利用することによりコスト縮減が図られるよう努めます。

3. 県への意見聴取結果

再評価

(三重県)

- ・ 本事業は、宮川の自然を生かした環境教育や自然観察の場及び地域住民の憩いの場を創出するための事業です。引き続き、本県と十分な協議・調整を図り、宮川水系河川整備計画に基づき更なるコスト縮減に努め、効率的かつ計画的な事業執行をお願いします。

4. 対応方針（原案）

再評価

- ・ 地域住民の河川利用に関する需要が見込まれる事業の必要性は高くなっています。
- ・ 今後、効果の発現が見込めることから、宮川総合水系環境整備事業を継続します。